

## 小学校第3学年3組 図画工作科学習指導案

日時 平成29年11月10日(金) 13:10~13:55

場所 附属小 図工場

対象 附属小3年3組34名(男子16名,女子18名)

指導者 中野 和幸

本授業のキーワード 形や色, 材質, 用途からの発想 グループでの話し合い 「サポートプラン」

### 1 題材名 身近な「あれ」が、大変身！（立体に表す）

### 2 題材の構想

#### (1) 題材と材料について

本題材は、身近な物の形や色、材質、用途などの特徴を捉え、それらを基に生き物を発想し、画用紙やプラスチック段ボール、布などを使って、身近な物を発想した生き物に変身させるという立体に表す題材である。スリッパやほうき、椅子など、家庭や学校の中で普段目にする物が、「もし進化して生き物に変身したら？」と投げかけることで、児童の想像力や発想力を刺激し、身近な物に目を向けるとともに、そこから自分が発想した生き物をつくりだす楽しさを味わうことができる題材である。児童が選ぶ物は、バケツ、傘、靴、CDラジカセ、大型三角定規などが予想され、その材質はプラスチック、ビニール、布、木、金属と多様である。複数の素材を組み合わせている物もあるであろう。その物の形や色、材質などを常に意識しながら、材料を選択し加工することができるように、プラスチック段ボール、ビニール袋、スズランテープ、画用紙、アルミホイルなど、身近な物の材質に近く、児童にとって切断や接着がしやすいものを数種類用意する。接着には主に養生テープを用いる。題材を通して、普段目にする物の形や色、材質、用途を基にして生き物を発想し、自分のイメージに向かって材料や表し方を工夫しながら立体的に形を構成する力の育成をねらう。また、イメージした生き物を形づくる際、材料の用い方や加工の仕方など、これまでに身に付けた力を総合的に働かせることが必要となる。なお、身近な物や材料の特徴を捉えながら表すことは、高学年での材料の特徴を生かして立体に表す題材や、中学校美術科において、素材を通した自己内対話をしながら表す題材に繋がるものである。

#### (2) 児童の造形経験と実態について

本学級の児童は、厚紙や段ボール、ペットボトルなどを材料にした立体に表す造形活動を経験している。表す過程において、材料の特徴や効果を感じ取っている児童は多いが、その特徴や効果を基に、意識的に表し方を工夫することができる児童は少ない。用具に関しては、はさみや段ボールカッター、木工用・ペットボトル用接着剤、きり、金づちなどを用いた造形活動を経験し、安全に使うことができる。本題材で使用する材料や用具を用いた経験はあるが、多様な材料や用具の中から自分の表現に合うものを選択し、使う経験はまだ少ない。発想の傾向としては、材料体験や活動を通して表したいものを思い付く児童が多い。本題材を通して、物の特徴を基に想像、発想する力の高まりや、現実の物とイメージとを融合させながら新たな価値をつくりだす児童の姿を期待している。

#### (3) 指導の方法について

児童の「○○したい」という思いが持続するように、活動を展開する。第一次（題材の導入）では、身近な物を生き物に変身させることに興味をもつことができるように、身の回りにある多くの物の見立て遊びを行う。物の形や色などを捉え、別の物に意味付けをする見立て遊びを通して、様々な見方ができることや、形や色、材質、用途などの特徴を基に、イメージを広げることができることに気付かせる。その後、生き物づくりへと意識が向くように、ホースを例に、「もし生きていたら、どんな生き物になる？」と問いかけ、形や色、材質、用途を基に想像をふくらませて考える活動を行う。その際、具体的に活動のイメージをもつことができるように、どんな材料でどのように表したらよいか、表現方法も問いかける。多くの物からイメージしたり、変身させたい物を選んだりすることができるように、学校や家庭から、生き物になったら面白そうな物を見付ける時間を設ける。変身させる物が決まったら、自分が変身させるものの名前や特長、住処、鳴き声などを想像

しながらアイデアスケッチをかく時間を設ける。その際、自分の思いをはっきりさせたり、よりよいアイデアを得たりすることができるように、考えたアイデアについて、4、5人のグループで話し合う時間を設定する。

第二次（題材の展開）では、自分が選択した身近な物を、発想した生き物に変身させる。自分の表現に合わせて材料や用具を選択し、表し方を工夫しながら活動することができるように、多様な材料と用具を用意する。イメージや材質に合わせて材料を選びながら形の構成ができるように、材料ごとの接合の仕方や、児童が見付けた材料の使い方や表し方の工夫を掲示し、活動のヒントとする。また、大まかな形から装飾など細かな表現へと進むように、制作手順を掲示する。生き物のイメージをふくらませて具体的にもつことができるように、発想した生き物の体の特徴的な形や顔からつくるように伝える。制作する際は、同じ材料を扱う児童同士で、材料の切断や接合の仕方などを共有することができるように、材料ごとに場を指定する。教師は、個々の活動に応じた評価と指導を行うために、児童の思考や姿を予想し、支援の具体案を示した「サポートプラン」を基に、児童のつまづきに対する支援の方法、発想や創造的な技能のヒント、形や色、材質や用途などの造形要素への意識化・価値付けなどを行う。授業の導入と終末時には、児童が自分の思いを確かめ、活動の方向性を決めることができるように、活動についてグループで話し合う時間を設ける。活動を通して見付けたアイデアや、うまくいかず悩んでいる点などをグループで共有しながら、思いを継続し、活動を進められるようにする。

第三次（題材の終末）では、「身近な〇〇変身展覧会」を開く。他の児童や教師も見ることができるよう、自分が発想し、表した生き物の解説書をつくり、その生き物がいそうな場所に解説書とともに展示する。その後、活動の価値について話し合い、身近な物に新たな価値を与えたことや、見た人に楽しんでもらえたことなどに気付かせ、造形活動のよさを実感させたい。

### 3 題材の目標と題材の評価規準

#### (1) 題材の目標

身近な物の形や色、材質、用途などから発想した生き物を、材料や表し方を工夫しながらつくることを楽しむことができるようにする。

#### (2) 題材の評価規準

ア【造形への関心・意欲・態度】	イ【発想や構想の能力】	ウ【創造的な技能】	エ【鑑賞の能力】
身近な物の特徴を捉えて見たり、身近な物の特徴から発想した生き物を表したりすることを楽しもうとしている。	身近な物の形や色、材質、用途などから生き物を発想し、その生き物の特長や形、展示場所などを考えている。	発想した生き物になるように、身近な物の形や色、材質、用途などの特徴を生かしながら、材料の使い方や表し方を工夫している。	お互いの作品について話し合いながら、表現の工夫や作品の面白さなどを捉えている。

### 4 題材の指導計画（全6時間+課外）

次	時	○主な学習活動	○教師の働きかけ	◆主な評価規準【観点】
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近な物の見立て遊びを行う。</li> <li>○ 見立て遊びを通して、見方を変える観点について考える。</li> <li>○ ホースを見て、どんな生き物になるか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身の回りにある多くの物を用意し、様々な見立てができることや、同じ物でもいろいろな見立てができることに気付かせる。</li> <li>○ 形や色、材質、用途などの特徴を基に見立てを行うことで、イメージを広げて見たり、様々な見方ができたりすることに気付くことができるように、観点を整理し、板書する。</li> <li>○ 具体的なイメージをもつことができるように、生き物を表すための材料や表現方法まで問いかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 身近な物の特徴を基に、見立て遊びを楽しむとしている。</li> <li>(活動の様子・発言)</li> <li>【造形への関心・意欲・態度】</li> </ul>

	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近な物から、どんな生き物になるか考える。</li> <li>○ 身近な物の特徴を基に発想した生き物のアイデアスケッチをかき、友達とどんな生き物になるのか話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分が変身させたい物を決めることができるように、変身させると面白そうなものを紹介したり、事前に見つけておくように伝えたりする。</li> <li>○ ホースを例に、1時目に見つけた観点に加え、特長や住処など、生き物をより具体的にイメージできるような観点を示す。</li> <li>○ イメージが広がるように、グループで話し合う時間を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 身近な物の形や色、材質、用途などから生き物を発想し、その生き物の特長や形などを考えている。 (活動の様子 ・アイデアスケッチ) 【発想や構想の能力】</li> </ul>
二	3 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アイデアスケッチを基に、自分が発想した生き物になるように表す。 ・中心となる材料 ・体の特徴的な形 ・顔</li> <li>○ グループで取組について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 制作手順を示し、中心となる材料を決定させる。</li> <li>○ 「サポートプラン」を基に、児童の活動を把握し、自分の思いに合わせて材料や用具を選び、工夫して用いる姿を称賛したり、具体的な支援を行ったりする。</li> <li>○ 材料ごとに分けて場を設定し、造形活動のヒントとなる掲示物を置く。</li> <li>○ 本時の取組やうまくいった点、悩んだ点をグループで話し合うとともに、次時の活動で行うことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 発想した生き物の体や顔になるように、身近な物の形や色、材質、用途などの特徴を生かしながら、材料の使い方や表し方を工夫している。 (活動の様子・作品 ・ワークシート) 【創造的な技能】</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分が発想した生き物になるように表す。 ・大まかな形 ・装飾や模様 ・細部の形・色 ・仕上げ（丈夫さ）</li> <li>○ グループで取組について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 制作手順に沿ってつくるように促す。</li> <li>○ 装飾・細部のこだわりを意識が向くように、児童が見付けた材料の使い方や表し方の工夫とともに、ヒントとなる掲示物を提示する。</li> <li>○ 移動や展示に耐えられるように、丈夫に仕上げることを伝える。</li> <li>○ 表したかった点が表れているかについて話し合うように伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 発想した生き物になるように、身近な物の形や色、材質、用途などの特徴を生かしながら、材料の使い方や表し方を工夫している。 (活動の様子・作品 ・ワークシート) 【創造的な技能】</li> </ul>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作品を仕上げる。</li> <li>○ 「身近な〇〇変身展覧会」の準備をする。 ・解説書を書く ・展示場所を決める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 展覧会を行うことを伝え、前時の話合いを基に、自分が表したい点が表れるように仕上げを行う時間を設ける。</li> <li>○ アイデアスケッチや作品を基に、生き物の名前や住処、特長などを解説書に書かせる。また、校内で迷惑にならないところに展示するように伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自分が発想し、表した生き物の特長や、展示場所を考えている。 (活動の様子 ・ワークシート) 【発想や構想の能力】</li> </ul>
三	課外	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「身近な〇〇変身展覧会」を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちだけでなく、学級外の児童や先生に鑑賞してもらえるように、一定期間展示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 展覧会を楽しんでいる。(活動の様子) 【造形への関心・意欲・態度】</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「身近な〇〇変身展覧会」の鑑賞を行う。</li> <li>○ 活動を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 材料の使い方や表し方、アイデアの面白さ、場所や生き物の特長の3つの観点を基に、お互いの作品のよさや面白さを伝え合う時間を設ける。</li> <li>○ 新たな生き物をつくりだした喜びや、見る人に楽しんでもらったという発言を取り上げ、価値付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ お互いの作品について話し合いながら、表現の工夫や作品の面白さなどを捉えている。 (活動の様子 ・ワークシート) 【鑑賞の能力】</li> </ul>



### 3年 題材名「身近な『あれ』が、大変身！」のサポートプラン

#### ☆育成を目指す資質・能力☆

物の形や色, 材質, 用途から発想し, 自分のイメージに向かって材料や表し方を工夫しながら立体的に形を構成する力 (創造的思考力)

○…児童の思考や姿 (◎は全員に持たせたい思いや姿) (□) …教師の支援

